

「なんで、自分はこんなに歯が悪いのだろう。どうしたらもっと良く治るのだろう…」
歯が悪く、歯科医院に行っても行っても治らない。こんな疑問を持っている方は大勢います。

歯が痛くなったら、近所の歯科医院に行き治してもらい、そこが治れば、ついでに他の所も治し、先生から「全部治ったよ」と言われて治療は終わります。

また何年か経ち、どこかおかしいところがあれば、また歯科医院に行くという繰り返しの方は大変に多いです。

「もう抜くしかないです」

歯科医院に行って一番聞きたくない言葉です。

あなたの行かれている歯科医院の先生がインプラント治療を行っていない場合や、インプラントの技術が低いと、取り外し式の入歯やブリッジ（架橋義歯）でああなたは苦勞するかもしれません。

人生の楽しみの中に食べるという行為があります。おいしく食べる、絶対に失いたくない行為です。

社会や家庭で生活していく上で、会話という行為はなくてはならないものです。最高の笑顔は相手にとてもよい印象を与え、あなたの立場を良くするでしょう。もしその時、取り外し式の入歯やブリッジ（架橋義歯）であれば、あなたの魅力は半減するかもしれません。

現代の歯科治療にはミニマルインターンション（最小侵襲）という考えがあり、なるべく歯を削らない、なるべく手を加えないという意味です。その中の一つがインプラント治療です。

私自身、A型で心配症です。何か物事を決断する際には非常に悩むときもあります。

「なぜか？」

イメージが湧かないときです。服を買いに行き、試着して大丈夫と思って買い、家で着てみたらサイズが合わない。自分が思っていた感じではない。こんな経験は皆さんされたことがあると思います。

インプラント治療を受けて本当においしく食事ができるのだろうか、見た目はどうだろうか、どのくらい歯科医院に通うのだろうか、先生はやさしいのだろうかなど、様々な疑問があります。

その疑問が解決された時、あなたは頭の中で全体の治療のイメージが湧くはず。「これなら受けられる」「こんなことされるならインプラントはしたくない」

そうです。あなたがはじめてインプラント治療を受けに歯科医院に行く前に、この本を通して、インプラント治療のイメージをもって欲しいのです。

また既にインプラント治療を他で受けられた方は、その違いを比べてください。

この本を通して、

- 一、インプラント治療への理解
- 一、治療へのイメージ構築
- 一、私のインプラント治療の考え方

をご説明していき、インプラントに対する正しい知識を獲得し、あなた様の今後の歯科医院選びの参考になればと思います。